

年 組 名前：



道の駅どうしが行っている移動販売。食品や生活用品を積み込み、村を巡っている  
—道志村

# 道の駅どうし発 移動販売が好評

## 外出困難な高齢者の支えに

道の駅どうしが、道志村内で展開している食料品などの移動販売が好評を博している。道の駅が扱う食料品や日用品のほか、食器や手作りした総菜なども販売。山あいの村には商店が少なく、近隣自治体への移動に苦労する住民が多いため、歓迎の声が上がる。

〔深沢澤〕

「間もなく移動販売車が参ります。ご入り用の方はお集まりください」。9日昼、道の駅どうしの職員2人が、運転するワゴン車の席上からマイクで呼びかけると、住民が集まってきた。国道413号（道志みち）沿いの民家敷地に停車し、後部ドアを開けるとパンや総菜、アイスクリューム、日用品がお目見え。約30分停車し、集まった全員が買い物を済ませると、ワゴン車は次の地区へ走って行った。

村が出資し、道の駅を運営する「株式会社どうし」によると、移動販売は2021年12月、試験的に実施。住民に好評だったため昨年12月から本格的に運行を開始し、3月までの4カ月間で計7回、村内を巡る。

村内で日用品を購入できる店舗は道の駅を含め5軒ほどで、いずれも国道沿いに店を構える。村には、運転免許がなく村外への外出が難しい高齢者があり、市街地からも離れているため移動販売の需要は高い。道の駅にとっては閑散期に当たる冬場の売り上げ確保につながるため、移動販売に乗り出した。

扱うのはパンや菓子をはじめとする食品、洗剤などの日用品、道の駅の食堂で調理した総菜などで、国道沿いを中心に村内約10カ所を巡る。国道から外れた山間部の住民に対しては、希望に応じて自宅近くまで赴く。9日に利用した佐藤治子さん（76）は、運転免許がないため一人で買い物するのが難しいといい、「移動販売で買い物をするのは本当に楽しい。近所の人と話す

機会もできてありがたい」と語った。

今後、需要や売り上げが高まれば、通年での運行も検討する。村と協議して専用車両の購入も目指す。担当者は道の駅は住民向けに日用品を取りそろえているが、観光客がターゲットと考えている村民は多い。移動販売を続け、村民に必要とされる施設にした」と話していた。

(2023年2月17日付 山梨日日新聞 19面)

### 問1

道志村で展開している「移動販売」では、どのような商品を取り扱っていますか。

.....

.....

### 問2

移動販売について、利用者と運営側「道の駅」双方のメリットを教えてください。

- ・利用者： .....
- ・道の駅： .....

### 問3

利用者の佐藤さんは、楽しんで利用しています。買い物以外の楽しみを教えてください。

.....